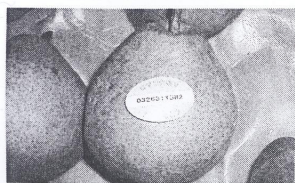


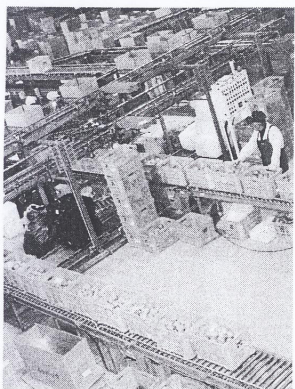
農薬ナビでリスク管理



1個ごとに識別コードをつけた



携帯電話でも判定できる



JAてんどうのラ・フランスセンター

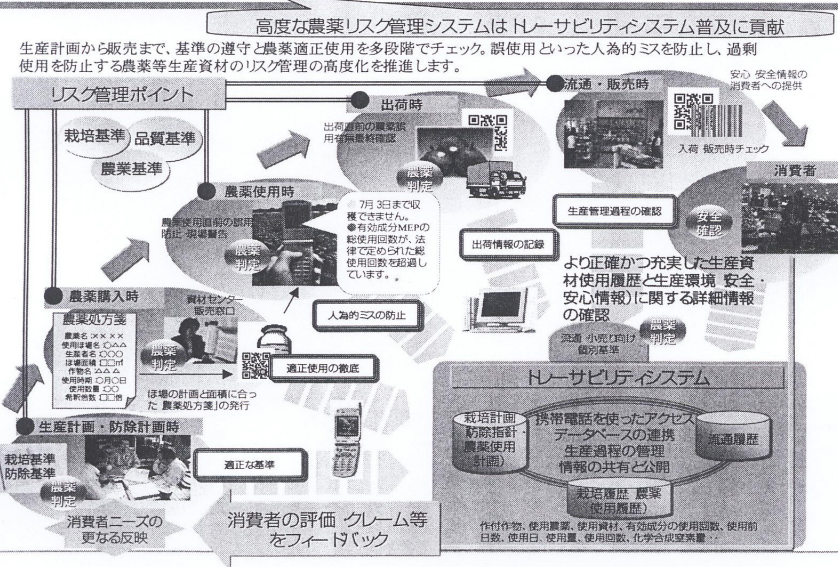
農薬ナビを活用した農薬使用リスク管理システムは、中央農業総合研究センターが開発した「農薬適正使用ナビゲーションシステム（農薬ナビ）」の研究成果を活用した農業協同組合（JA）や農事法人向けの業務用システムだ。農林水産省の平成17年度ユビキタス食の安全・安心システム開発事業のひとつとして採択され、開発実証を行っている。農薬ナビを活用した

システム構築は、ソリマチ（本社・東京都品川区、反町秀樹社長）が行なった。①生産計画から販売まで多段階で多基準な農業適正使用判定の栽培方法や栽培目的にあわせた防除基準・栽培計画の作成②農薬使用履歴情報（F-WiH）の自動記録③自動記録が主な特徴だ。農薬判定は、法定基準である農業取締法のほかに、県の基準、JAの基準など法定基準

農薬誤使用を事前に判定

高度な農業リスク管理システムはトレーサビリティシステム普及に貢献
生産計画から販売まで、基準の遵守と農業適正使用を多段階でチェック。誤使用といった人為的ミスを防止し、過剰使用を防止する農業等生産資材のリスク管理の高度化を推進します。

多段階かつ事前の農薬適正使用判定・現場警告と情報開示



農作物を有害な生物から守り、収穫量や品質を安定させるために使われる農薬は、生産者にとってひとつの手段だ。しかし、農薬使用基準は詳細化・複雑化しており、今年5月には農業のポジティブリスト制度が導入されるため、その基準全てを確実に満たすのは至難の業だ。現在、農業適正使用ナビゲーションシステム研究会（町田武美会長）が取り組んでいる「農薬ナビ」を活用した農業使用リスク管理システムは、農薬ナビ（注）を活用し、農薬の誤使用を事前に判定・警告することで農薬使用リスクを最小化し、適正な農業使用履歴の自動記録や公開を可能にするもの。昨秋、山形県のJAてんどうで実証試験し、「手間がかからず安心だ」と、生産者の評価が高かった同システムを紹介する。

ソリマチがシステム構築

「農薬ナビを活用した農業使用リスク管理システム」は、中央農業総合研究センターが開発した「農薬適正使用ナビゲーションシステム（農薬ナビ）」の研究成果を活用した農業協同組合（JA）や農事法人向けの業務用システムだ。農林水産省の平成17年度ユビキタス食の安全・安心システム開発事業のひとつとして採択され、開発実証を行っている。農薬ナビを活用した

システム構築は、ソリマチ（本社・東京都品川区、反町秀樹社長）が行なった。①生産計画から販売まで多段階で多基準な農業適正使用判定の栽培方法や栽培目的にあわせた防除基準・栽培計画の作成②農薬使用履歴情報（F-WiH）の自動記録③自動記録が主な特徴だ。農薬判定は、法定基準である農業取締法のほかに、県の基準、JAの基準など法定基準

高度な農業リスク管理システムはトレーサビリティシステム普及に貢献
生産計画から販売まで、基準の遵守と農業適正使用を多段階でチェック。誤使用といった人為的ミスを防止し、過剰使用を防止する農業等生産資材のリスク管理の高度化を推進します。

歴取り込み③携帯電話で農薬の判定と履歴記録・取り込みをした。結果、JAてんどうの農家620人の履歴記入用紙からデータに取り込み、収穫前日数違反にならないように指導した。これまで目視で行っていた農業適正使用判定は短時間で実施できた。携帯電話で事前判定と履歴記録を実施した農家からは「履歴を紙に書く手間が省けた」「散布前の事前判定ができたため安心だ」と評価があり、サクランボでの実施を望む声が続出した。

望む声が続出した。ソリマチでは実用システムとして製品化を図り、全国のJAを主体に告知していく。12月には横浜市場を取り込み、流通段階におけるトレーサビリティシステム（ベジトレース）との連携の実証試験を行った。

（注）農薬ナビ＝農業取締法の基準に反する農薬使用を事前に警告し、適正使用を支援、使用計画データをネット経由で送信すると、適用条件を満たしているかが判定される。